

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400419		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	しあわせの里 認知症対応型共同生活介護事業所(ゆうゆう)		
所在地	島根県出雲市上岡田町1031番地1		
自己評価作成日	平成27年1月29日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成27年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自宅のような雰囲気の中、日常をゆったりと過ごすことで心身の安定を図り、入居者・職員がともに安心して生活しています。又、家族とのコミュニケーションを大切に日々努力しています。 ・自分でできる範囲で、身の回りのことや家事をすることで自立した生活を維持・回復するとともに、生活意欲が向上するようなケアを行います。 ・近くで借りている畑で、季節ごとに収穫した野菜を用い入居者と一緒に選別したり、下ごしらえをし、好みや希望を献立に取り入れ、温かい手料理を提供しています。 ・地域との結びつきを重視し、行事等に参加をし社会とのつながりを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平田市街地まで車で約10分の県道脇に開設二年目のホームはある。社会福祉法人ほのぼの会で経験を積んだベテランの職員が、地域の介護ニーズに沿ったケアを実践しており、落ち着いた雰囲気の中で、利用者さんは穏やかに暮らしておられる。前身のあかねの里が移転した後に、ユニットを増築しており、地域との連携はそのまま引き継がれ、ホールと和室、キッチンを備えた交流スペースも運営推進会議などだけでなく地域住民の多様な活動拠点としても開放している。認知症が進行したり、車いす利用の方がおられたりと、利用者さんの状況は様々であるが、お昼に海鮮鍋を囲んで、皆で、楽しい食事をとるための職員の方々の、個々に合わせた食事形態の対応や、家族のような接し方などの細やかな配慮に質の高いケアを感じた。家族の職員方への対応の満足度も高い。ホールや個室、水回りなど、事業所全体が清潔で掃除も行き届いている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を通して、利用者が安心して暮らせるよう職員が理念を共有している。	「親切 公正・地域 交流・信頼 融和・健全 経営」という法人共通の理念が、ホームにおいても守られるよう、日々唱和している。職員の動きや利用者さんへの接し方、近隣との交流などで、その実践を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をしたり、地域の老人クラブを定期的に招き歌会を催したりしている。又、利用者とともに事業所周辺を散歩に出掛けた際などは挨拶をし、結びつきを強くするよう努めている。	近所の方の畑を借りて、利用者さんと農作業をしたり、挨拶を交わしたりする。地域の常会にホーム長が参加したり、週2回の地域サロンにホームの利用者が招かれて参加して、茶のん話も行うなど、前身のホームで築かれた人々とおつきあいが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理解・支援がいただけるよう、管理者が地域の常会や地域の草刈りに参加し、適宜説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの結果や意見を参考に協議し、質の向上に努めている。	会議の参加者の中には、地元の人が半数以上をしめており、自分のことのように親身になって活発に意見を出し合っており、利用者さんがホーム内外で楽しく暮らせるよう、協力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で現状の報告を行ったり、疑問・質問等あれば直接電話で相談しながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の本所の担当者さんとは、顔の見える関係を築いており、さまざまな相談助言が出来る。来年度の法改正についても、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で日々話し合い、利用者に安全かつ身体拘束をしないケアについて協議している。	お部屋に居る利用者さんが転倒していないかなどは、頻りに訪室して、様子を見守っている。利用者さんの自由な行動を妨げないよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、学ぶとともに虐待が見過ごされないよう職員間で注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加等で、知識・理解を深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に極力事業所の見学をしていただき、その際に質問・疑問に答えている。又、実態調査時にもそうするよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議に利用者・家族会会長に参加いただき、意見や要望を聞くよう努めている。	家族からの意見が言いやすいよう、来ホームの際には、お茶のもてなしや利用者さんについて一緒に話をする時間をいただくようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議やユニット会議を開き、意見や要望を聞き反映させている。	月1回のユニット毎会議や幹部会議など、計3回の会議で、意見を出し合い、文書でもホーム全体で共有している。職員はいつでも思いや意見を上司に言える雰囲気があり、まず、やってみることから問題解決やケアの向上に結びつけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の特長・性格を把握し、意欲の持てる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく研修会に参加できるような体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平田地域福祉研修協議会主催の合同研修等に参加し、交流の機会を設けている。又、研修に参加した際はグループワーク等で、他事業所の取り組みを聞き、吸収できる場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に実態調査に出向き正確な情報収集を行い、安心した生活が送られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の事業所見学や実態調査の段階で家族と話し合い、契約の時にもより良い人間関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	きちんと話し合いを行い対応するよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安全・安心に生活をする場所の提供を心がけ、馴染みの関係づくりや信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より家族の方とのコミュニケーションや信頼関係づくりを心がけ、より良い人間関係を築くことができるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が気軽に足を運べる雰囲気づくりや、それぞれの地域にも出掛けられるような環境づくりに努めている。	関係者の面会には、湯茶でもてなし、職員も話をうかがうようにしている。従来の生活のつながりも大切にしながら、時間をかけて、ホームでの暮らしに馴染んでもらえるようにしていきたい。バスに乗って面会に来られる人もいて、ホームの前でバスに乗降できる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で馴染みの関係や信頼関係が構築出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も気軽に訪問していただけるような環境づくりに努め、街で出会った際も声がかけられるような人間関係を構築するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位の支援を前提とし、困難な場合は家族や職員間で協議している。	思いや意向は、家族さんにも分からない事も多い。ホームでの暮らしの中で、利用者さんが何をしたいのかを表明できないとき、職員は、今までの生活の有様を理解した上で、様々に働きかけて、やってみて、結果を評価しつつ、利用者さんの満足や喜びを見つけていく。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の実態調査時や入居後に本人や家族から生活歴・住居の環境などを細かく伺うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が本人の生活の流れや心身の状況、又、残存能力等を注意深く観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を伺い、現状を考慮しチームで話し合った結果を介護計画に反映している。	家族との話し合いを継続するために、面会時だけでなく、電話やメールなど、様々な方法で連絡をとっている。認知症の進行した方のケアのあり方について、職員全員で取り組む課程で、チームワークが向上し、結果、利用者さんや家族にも納得できる介護計画を実践することが出来た。新人職員から学ぶことも多い、と言われる姿勢にチームワークの良さを感じた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても理解しやすい記録を残すよう心掛け、気づきや工夫、疑問等の情報をチームで共有、協議の上、実践に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やその家族、個々の状況や意向に沿って柔軟な対応を心掛け、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会との交流や畑を借り作業に関わることで生活にハリを持っていただいたり、地域行事へも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ在宅からのかかりつけ医に継続して診てもらおうようにしており、訪問診療・往診・受診、又は突発的な受診等家族と連絡をとりながら支援している。	協力医療機関は、診療科の違う4つの病院があり、往診もしてもらっている。利用者さんのかかりつけ医に継続して受診する方もいる。職員が受診に同行することもあり、結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から、介護職と看護職の情報共有を図り、異常の早期発見や早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、定期的に面会へ行き、病院関係者・家族に状況を確認している。又、退院前にはカンファレンスに参加し本人の状態の確認に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況により主治医・家族とも話し合い、当事業所でできることの理解を得たうえで支援に取り組んでいる。	開設後一年間で三人の方の看取りがあった。今後も、医療機関、看護体制などを見極めながら、法人母体とも協議しつつ、重度化したときの対応について、出来る限りのケアに取り組んでいきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるよう、緊急連絡網・手順等を記し各ユニットに置いている。又、講習等を受講し、更にスキルアップを図る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、そのうち1回は地域の住民にも参加してもらっている。又、緊急避難場所も確保している。	利用者さん参加の避難訓練を行った。住民も協力してもらい、避難場所も確保できている。今後も年2回の訓練を行い災害に備えたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、敬意と思いやりを持った対応について職員間で話し合っている。	排泄誘導時のそれと悟られない声掛けや、お部屋の使い方についての自由を護ったりなど、利用者さに意向を確かめながらケアをしている。個人として、最大限尊重する姿勢が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝えられたり、読み取れるような関係づくりに努め、自己決定ができる環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	信頼関係の構築に努め、本人の望む生活を送れるような働きかけや支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の希望や好みが反映されるよう支援することを心がけている。化粧をされるかたには積極的に本人の意欲が湧くような声掛けを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その料理に関する会話や日常の話題でコミュニケーションを図りながら、ともに準備や片づけに携わるよう心がけている。	職員は、利用者さんと一緒に献立を決めたり料理を作ったりしている。ホームの畑で収穫した野菜を使った手作りの食事は、暮らしを豊かにするものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握した上で、水分摂取量の目安を設定し、必要あれば食形態を工夫するなどしている。又、食事が摂りやすく楽しみになるよう器やスプーン、盛り付け等に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助を行い、全利用者に口腔ケアを実施している。又、各利用者のスタイルに合った義歯消毒を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、早めの声掛けを心がけている。模索中のかたには、排泄チェック表で傾向の把握に努め、支援に向けて取り組んでいる。	入居して、約1ヶ月で排泄パターンを把握した後は、頃合いを見計らって、トイレに誘導して、自然な排泄を促している。紙おむつの利用者さんには、清潔に心がけるとともに、プライバシーが護られるよう、配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全利用者の排便状況の確認を行い、水分摂取量の確保や適切な運動・トイレ誘導を行うよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日に健康チェックをし体調を確認したうえで、最低週2回は入浴の機会を設けている。又、できるだけ柔軟な対応を行うことができるよう取り組んでいる。	入浴はゆったりとした雰囲気で行い、時には歌ったりするなど、利用者さんと職員との楽しいふれあいのひとときにもなっている。肌が乾燥しないよう、泡せっけんでやさしく洗うなどの工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調に合わせて休憩時間に配慮し、安定した睡眠がとれるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬について理解を深めるよう努め、服薬介助の際は間違いの無いように職員間で二重確認している。症状の変化については、介護記録やチェック表に記入し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、そのかたの力量・好みに応じた役割や趣味を楽しんでいくことで生活のハリとなるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ柔軟に対応するよう心がけている。事業所周辺の散歩や個別に買い物へ出掛ける等、日常の中で開放的な気分になれるような働きかけも行っている。	散歩は毎日のように行う。食材や日用品の買い物で、お店に車で出かけたり、遠方にもドライブして、楽しい気分を味わってもらえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を預かることはしていないが、外出の際等、買い物を希望されれば立替をし、後日家族から支払っていただくことで利用者の希望に沿うよう心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、手紙を出したりと職員以外との関わりにも配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を活けたり、行事に参加された時の写真や利用者の作品を展示し明るく心地良い雰囲気づくりを心がけている。	吹き抜けのホールや、窓からは自然の光が取り入れられ、外の景色も眺められて開放的である。キッチンがホールに突き出たしつらえは、食事作りも生活の一部としておいしそうな匂いもってきて心地よい。手作りの飾り付けは、ホームでの暮らしの証であり、利用者さんにとって大切なものである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を置いたりし、自由に交流ができる雰囲気づくりを心がけるとともに、独りの時間も過ごせるようなスペースも確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持参していただいたり、お気に入りの物を居室に飾ったりと居心地の良い環境づくりを心がけている。	居室は明るく清潔でおしゃれ、濃茶のチェストが落ち着いた雰囲気を出している。それぞれの利用者さんの個性に合わせて自由に居室がしつらわれており、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり・トイレの目印等で安全に生活できるよう工夫している。		